

議題（4）

次に取り組む場面について

以下、「資料4 次に取り組む場面について」になります。

1 本議題の趣旨

本市は、現在「入退院支援」の場面に取り組んでいます。昨年度、開催した検討会により、同場面の目標や評価指標を設定したところであり、PDCAサイクルに沿って実施、改善していく体制が整ったと考えています。

今年度、人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発を目的とした市民向け講演会を開催しましたが、定員を超える申込があり、人生の最後を住み慣れた地域や自宅で迎えたいという市民のニーズが高まっていることが示唆されました。

また、本市においても自宅での看取り件数が増加していることに加え、超高齢社会や長期化しているコロナ禍の影響により、今後も更に在宅医療を望む市民が多くなると想定されています。

旭川市保健所においても、「在宅での看取り」をテーマに関係者向け研修が実施されており、看取りへの関心が高まってきていると考えられるので、次年度以降、本市として看取りの場面に取り組んでいきたいと考えています。

2 在宅医療・介護連携推進事業における4つの場面について

(1) 在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver. 3より抜粋

第2章 市町村における事業の進め方

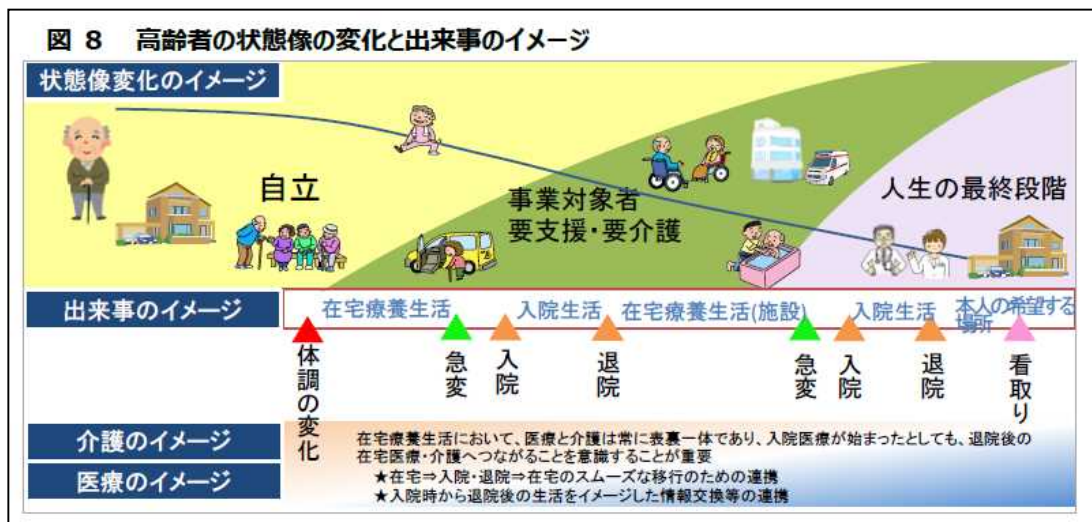
3. 4つの場面を意識したPDCAサイクルの考え方と展開例

ポイント

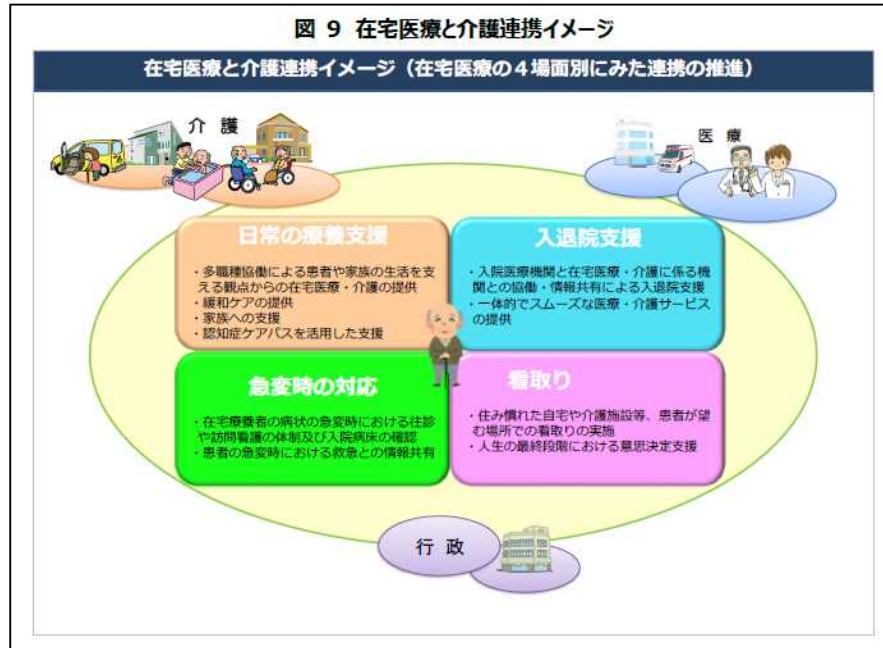
在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる場面（①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り）を意識した取組が必要である。

(1) 4つの場面について

- 人生において常に健康状態は変化するが、特に、高齢期になると、加齢に伴う心身機能の衰えから、日常生活において、医療や介護が必要となることや、容態が急変して入院することもある。また、退院後は在宅医療や介護が必要となる場合や、あるいは在宅療養中に容態が急変し、看取りに至ることも想定される。ライフサイクルにおいて、場面毎に必要な医療と介護のサービスの比重は変わるものの、地域において在宅療養者が医療と介護を必要とする場合には、医療と介護が連携し、高齢者が住み慣れた地域で最期まで生活することができるように支援していく必要がある。



- ・・・在宅療養者の生活の場で医療と介護を一体的に提供するために、在宅医療の場面を生かしつつ、さらに、入院時から退院後の生活を見据えた取組ができるよう、高齢者のライフサイクルを意識したうえで、本事業においては、医療と介護が主に共通する4つの場面（日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り）を意識して取り組む必要がある。なお、この4つの場面は、双方が重なり合っていることも少なくないことに留意が必要である。



3 意見をいただきたい事項

- (1) 看取りの場面に取り組んでいくことの是非
- (2) 看取りの場面における課題
- (3) 看取りの場面について考えられる取組

4 参考

(1) 「看取り」に関する意見

ア 令和元年度 第1回検討会での意見

- ・施設での看取りが増えてきているものの、難しいところがあると感じる。
- ・多くの施設で、看取りを行ってもらえるとよいが、施設長の考え方などによるところがある。
- ・徐々に、看取りに対する意識は向上していると感じる。看取りを行っていく上では、介護側の要因も大きいですが、医療側の要因も大きいと感じる。
- ・介護老人保健施設での看取りを期待されている状況にあり、将来的に、老人保健施設協議会も力を入れなければならないことであると考えている。しかし、介護人材の問題のほか、介護老人保健施設では、医師1人で、年間で入所者全員を常に担当しており、地域の方々まで看取することは難しい。

イ 令和3年度 第1回検討会での意見

- ・長引くコロナ禍の影響で入院先での面会ができず、退院して最期の時期を家族と過ごす例が増えたと感じる。地域住民がどこで最期を迎えることができるか把握していない状況があり、選択肢があることの周知とともに、選択できる体制となるよう医療・介護関係者へ働きかけが必要。

- ・コロナ禍の在宅医療では看取りと急変時の対応が困難な状況があった。訪問看護ステーションの対応にばらつきが生じたり施設内のクラスターで看取りが困難等の状況が見られた。
- ・施設での看取りについて、施設管理者の考え方もあるが、職員体制から困難であったり夜勤の職員の経験や理解に左右されることもあると思う。
- ・施設で亡くなった際に救急車を呼ぶと警察の対応になってしまうケースが多く、亡くなるまでのプロセスとその後の対応について一定の整理を行うことは必要と感じる。

ウ 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発を目的とした市民向け講演会参加者アンケートからの抜粋（令和5年2月4日開催）

（在宅医療・介護連携分野の講演会で今後希望するテーマ等）

- ・エンディングノートについて。疼痛に関する緩和ケアについて。
- ・ケアマネジャーが重要な役割をもつと知った。
- ・大切な人を亡くした家族にどう寄り添うのか学習したい。
- ・非常に参考になった。東京版ではなく旭川市の現状を知りたい。旭川で可能なのか・・・。
- ・旭川で診療しておられる医師の方々にお話を聞いてみたい（困ることもいいお話も）。
- ・旭川での医療体制が不安である。というのは知らないから、情報がないから。
- ・夫の（両親の）在宅での看取りをできて満足であった。
- ・より自宅で最期を迎えたいという気持ちになった。夫（母）はできるなら在宅で看たい。